

降矢さんに聴く（4巻A面）

（収録 1979/10/16）

（テープ起し 2009/4/28）

修正 2014-9-12

降矢：まずいですね、インゲン、その後はね、・・・。

木俣：アズキですが、寒くなると硬くなってんじゃないですか。

降矢：寒いのは我慢できるが、霜が来るとね、○○○が落ちてきちゃうと、それで水分がなきゃいいんだが、そいでね、あの露天に架けていても、それから霜が来てもそういうことはないだが、生きてるヤツに霜が当たったことが○○○だったらしいですね。厄介なのはソバとか・・・霜にあたると茎がぐにゃぐにゃになってしまうからね。取り上げちまうべと、・・・。わずかしか作りませんがね、イネがね、早くの台風と風で倒伏して。子供が機械を買ってきて機械刈りしたけど、ウンと冷たいところは、機械はうまくないだ。それであんなに落穂ができた。

木俣：日曜日ですか、この間の・・・。

降矢：そうですね、7日の日曜、十月の台風で残りもね、・・・。

木俣：学校のは26日です。それからです。

降矢：わしゃ、町に行かないけれども、この辺りは刈り終わったようです。青くっても倒伏しましたら、倒伏して穂が土につくと穂から発芽しましょうから、くしゃくしゃになってすぐ発芽してしまう。

木俣：ですから、倒れたところから、昨日、刈って・・・。

降矢：一日刈って、稲を起こして結わえて、・・・。

木俣：それもやったのですが、ひどいところだけ昨日刈って、・・・26日は授業なので、勝手に刈れない。皆でやれるようにということですから。26日でないと授業が始まらないので、その本当に今週くらいに刈れば良いのに、一週間ほど遅らせることしようがない、・・・。

降矢：わしね、通例はね、・・・どれも早かったですよ。四、五日頃・・・(?)・・・。

木俣：今年はね、早かったですよ、一週間ほど、・・・。

降矢：そうするとね、茎がいたまない。多少、機械でつぶれたところがあっても穂がとれなかった。長雨に遭うと○ところが傷んで、・・・。

木俣：でも一反二畝しかないので、機械も動力のを入れたんですけど、・・・。

降矢：ウチでは機械は買えはしないとも、嫁の家では田をうんとやってるで、そのうち一日借りてきてね、使って、早々に刈っちゃった。向こうはそうそう使わないので、・・・ハッハッハッ・・・。

木俣：一時間で二時間でぜんぶ刈っちゃう。ですから、年にその四日間しか使わないですね。ムギが多少あるので、ムギを少しとイネを刈って、後は倉庫にしまえばなしなんですよ。

降矢：わしらもね、その田植機買ってね、手間ばかり掛かってバカバカしい。その最近の、・・・(?)

木俣：学校だから買えるんです。お金がありますから、放っておいても、・・・。

降矢：予算があるからね、ワシらは小さい耕運機をね、・・・一年にいくらも使わないで買う人がいる。その人たちはね、あの農家の庭では・・・?、日曜か何かに耕運機をばたっとやってね、後は引き取りですわ、二、三日しか使わないからね。

木俣：そうすると、どうやってやるのかな・・・。乗用小型のやるのと普通の手でやるのと、普通のカルティベーターという耕うやつと、・・・。

降矢：学校ではあっても、・・・。

木俣：皆、学生は学校の先生になるんですから、一切やらないんです。

降矢：でも、まあ、生きた学問の入り口だけじゃ、実際に扱って見ないとね、ワシなんか、他所の実際を見ないから、どうなるんだか分からない。テレビでは、いわゆるマスコミでね、だいぶ勉強だ、知識だか、得られるんだがね。

この間ね、桧原村で初めて共産党で村会議員になったという人が宅に知人と一緒に訪ねてきて、・・・。

木俣：桧原村の人がですか。

降矢：聞きましたらね、何代もとか、そっちの人が党に入って本当に党员としてそれが正業でやっていて、それで桧原村に定着して村会議員にでましてね。その人はウミ? ならばこのままにいるし、セイ? ならば何票はいるやら・・・。村会議員をやって桧原村の指導者になる気持ちとしてはやっていきたいと言っていた。

ヤマイモをやっぱりそれから大量に作ってね、自作のブドウ園をいえっっているとのことでした。

木俣：桧原村のどの辺りですか。

降矢：小岩と言っていました。ワシヤ、あまり近隣の人を好きやしないけれども、それでもね、そんなに嫌いではマズイだよ。その人とも、まあすべての人に付き合っって話を聴いて参考にして、良いことは真似したって恥ずかしいことはない。自分というミチ? からああ駄目だといって話を聴かないのは何だからね。ワシヤ、初めて共産党の新聞「赤旗」をみました。

木俣：ことしの夏は桧原村を大分歩きました。

降矢：ああそうですか、小岩だそうです。ワシヤね、桧原村は、数馬から笛吹、あの辺までは二回ほど行ったことがあります。あとは行ってないけれども。最近、桧原村教育委員会が出した村史、研究だな、貰って読んだり、いろいろ、・・・。

木俣：村史はまだ出ていないんですね、あ、ガリ版刷りのあれですか。

降矢：ええ。

木俣：あれはぼく、町役場へ行って貰いました。

降矢：あれだとかね、それから石仏を写真撮って、二部だか三部だか作ってね、そしたら

向こうは便がいいせいか、西原の石仏は、……。この間の石仏だがね、調べましたが西原にはどうも奇麗な価値のある石仏はないですね。

木俣：これは今日、上野原の教育委員会で貰ってきたんですけども、あんまりそんなのは載ってないんですね。西原のは載ってない、ほとんど上野原のですね、……。

降矢：西原はどうもないですね、……。

この辺、学校の……もう……やはり、土を掛けすぎたですかね、学校作って、……五メートルというようです。わずかならいいけど、深く埋めるといのはよくないですね、……。

木俣：今日、奥多摩の方で昔の食べ物を食べる会というのが開かれていまして、アワとかキビ餅を作って、……。

降矢：それもいいですが、この辺では前にもそういう物を作って物好きとか、……話を聴けばよかろうと言っても実行にはなかなか、……。……これがね、西原の宝珠院……

木俣：それはどこに在るんですか、……宝珠院。

降矢：この工場の……、あそこに在るのです。

木俣：ああ、あそこに在るのですか、……。

降矢：これがね、昔のウンゼン？だったろうと言っているのです。いまはね、臨済宗でね、前は真言宗だったです。これは？十年前に真言宗か、……。

木俣：途中から宗派が変わったのですね、……。

降矢：ええ、それでね、鎌倉幕府に移らった方が、モトヨシのタネツとだか改宗したですね。この辺は一带が武田家のヨソクちいうより北条氏の方が……多かった。長かったのではないかと思う。多少、武田家の時代もあったかも知れないが、後北条管下としては、……。

木俣：ええ、相模の方に近いですから、……。

降矢：このソダベリア？ほとんどまあモトヒ……だったか知らないけれども、みな真言宗に西原ばかりでなくね、改宗しただね。丹波で一ヶ所、小さい寺ですが、改宗しないで、あとは全部ね。

木俣：あんまりお寺のことは詳しくはないですけども、……。

降矢：丹波の一寺を除いては全部ね。上野原の町まで行けば、地（寺？）主一般ではないようですがね、けどまあ、この北都留地区はほとんど臨済宗ですね。まあ、〇〇が多かったですね。だから、イネとかその専門になると、お寺とかのあり方でもあるのですかね、……。でも、この間、共産党の人とね、話したんですけども（12時の柱時計の音……）、日本のスイシャ？…全国のスイシャ……あって、周りの日本は御世話になって、……イラ？に至ったそうだ。あの調子はんかああったのかね、檜に……その程度が濃厚ださあ。

木俣：自分らがですね、こういう仏像を見ていても大切だったろうけれども、ヒエとかアワとか、そういうものがよほど文化財として大切だろうと思うんですけども……。

降矢：それはその人、道々で仏像に熱心な人もあるし、最近はね、こういう樹木へね、非常にね、・・・。

木俣：でも、食べ物というのは人間が常に食べていないと失われるものですから。

降矢：まあ、こういう近時（時代？）の仏像にしろ、古いものにしろ、やはり失われるものは金では補いがつかないこと、歴史の方の証拠ですからね。そういうことじゃないかと思うのです。ワシヤ、もう専攻は何もないです。けれどもムチャクチャだからな、うまくないけど。まだこれで押せばいろんなもの出てくるでしょう。

木俣：桐原にも、・・・・。桧原なんか桐原よりも西原との交流が多かったようで。

降矢：やっぱり西原との交流が多かったように思いますけれども、地理的にみると。

西原のどっかに古い地図があった、何でも桧原の半分は西原分であった時代があったようですね。まあ南側の方ですか、・・・・。だけど、向こう（桧原村）はそんなことは言っていないけども。

木俣：こういう地図ですね、あすこの桧原村がこう、この辺までであるとですね、するとこの西原峠とこういう関係、ここの峠があるのですけれども、・・・・峠トチ原ですか、ここの辺りは小さい部落しかないんです、桧原村は、・・・・。こちらに数馬から笛吹というおおきな村があるので、こういう交流が多くあったのだろう。

降矢：それが何故っていうと、西原は聴取しないとならないんだけどね、ここをまあ、四角な村ですがね、ここは両方とはちょっと異なる。小菅、いま似てはいるけど、桐原も・・・・、西原は単独で違ったネ、・・・・モノがあるような土地なんですよ。よくまあ調べていないけどこっちへね、この両方にあまり気兼ねがなくこっち（桧原と交流していた）と暮らしていた時代がかなりあったのだろう。

ほいでね、ジュンタイネムとこの町といき〇はね、クラスヨブになっているのは、いちばん日が浅いですからね、いま絶えたけれども、・・・・。こっちとここの辺りに尾根・・・・。

木俣：西原峠と都留峠がありますね、・・・・。

降矢：佐野峠。

木俣：佐野峠ですね、・・・・。

降矢：ここんところ、そこを越えてね、あれは七保からね、大月、猿橋、向こうとも交流あって、ここのね、こう行くと大菩薩へ行くでね、それでは中世期？だろうと思います。この路がいちばん古いのじゃないかと思います。

木俣：ちょっとですね、この辺を夏に全部調査してですね、今日、地図もってくれば良かったのですが、実は、チョウセンビエが何処にあるかということですね、ここの部落の辺り、それからここに二軒、奥多摩に一軒、この辺にたくさん作っているのは、・・・・他に・・・・こちらの小菅村に何軒か作っている。もうひとつ面白いのは、アワなんですよ、アワはこっち桐原に行くとメシアワたくさん在るのですよ。こっち行くと全部、モチアワになっている。

降矢：アワはね、西原は低くてもっと日当たりのよいその、だから町寄りの方がうんととれるようだね。結局、海拔の高い方は全然とれないことはないけれども、低い所の方がアワはとれるでしょう。

木俣：収量が高い、・・・。

降矢：それが、チョウセンビエというのは、海拔の高い方が案外とれるのではないかと思う。こっちは晩生ばかり出来て倒伏しちゃった。

木俣：学校で作ったのもそうでしたね、丈ばかり大きくて駄目でした。

降矢：あれは直播きでしたか、・・・。

木俣：いや、いちおう移植して、・・・真似してやってみましたのですが。

降矢：チョウセンビエは平野部のものではないから、・・・モウリの・・・

木俣：でも平野部でも作っていたのです。東京でも・・・少しは、・・・。もっと畝間をとるか、株間を遠くすることでしょうね、それで土地が肥えていましてね、カリ分だけやって、窒素分はやらないようにしたら、いいんじゃないんですかね。

木俣：で、いろいろ調べてみたんですけど、いろんなアワとかキビとか。すると西原と小菅にいちばん残っているんですよ。種類が、・・・。

降矢：七保にはないかね。

木俣：七保には何もなかったです。トウモロコシしか。

降矢：アワはね、子供の頃から西原ではモチでね、メシアワは最近作っていますがね、元々はあまり作らなかった。それで桐原まで行くとメシアワをたくさん作りましたですね。西原ではメシアワは不適ということでしょう。

木俣：普通食べるのはその、チョウセンビエとかムギですか。

降矢：それからヒエ。ヒエは食べにくいからいちばん先になくなったり、ヒエは、歴史はチョウセンビエより古いかも知れないね。

きまた：桐原の方ですと、かなりアワを食べているということですね。ムギとアワ、こちらはチョウセンビエとヒエ、それで何かお祭りのとき、お餅つくるときにはアワの餅を作ったとか、・・・。

降矢：ええ、アワとかあるいはコムギの・・・まあ、ずっと古い時代には白米でお餅なんかこしらえることは町の方でもなかったのではないか、土地では何かオバクもあまり作らなかったのではないかと思う。

木俣：オカボも作らなかったのですか。

降矢：ええ、オカボもあまり作らなかったですね。

木俣：**ゴホウ** (?) 辺りは結構、オカボを作っているようですが、・・・。

降矢：ええ最近だけでね、古い時代はあまり作らなかったように思う。

木俣：すると、お祭りのときというと、アワ、キビ、・・・。

降矢：えーと、それからコムギの酒まんじゅう。

木俣：きっと桐原の方はお餅というとおカボか、だいぶとるからオカボの餅なんか多かつ

たんでしょね、・・・。

降矢：そうかな、オカボそのものも昔からあったでしょうか、品種改良なんかわかりません。・・・されなかったならともかく、あまり収穫量は多くなかったのではないかと思うが。どうも、西原の辺りでオカボを作り出したのは調べないとわかりませんが、どうも古くはないと思います。地力はあってもね、結局、単種でね。オカボは、現在のように品種が方々、高冷地向きだとか何だとかいろんなあればなんだけど、仮に作ってもあまり収量がないから、結局、間違いのないアワとかヒエとかチョウセンビエが、・・・。

木俣：ちょっと気になってね、1950年の農林省の調査をみると、トウジンビエは作ってないでしょね、・・・。

降矢：その○氏(?)は、・・・。

木俣：おそらくチョウセンビエのことをトウジンビエの方にマル(○)をつけてしまっただけだと思うのですが、・・・。トウジンビエというのを作られたことありますか、トウモロコシを小さくしたような穂なのですが、・・・。

降矢：あれは、穂モロコシというやつですよ。

木俣：いやそうじゃないです。トウモロコシの四分の一くらいの握りつぶしたような感じで、黒いような茶色いような実がびっしりつく、・・・。

降矢：穂でね、穂モロコシのような、背が低くて、そんなのがあるんじゃないですか。

木俣：穂モロコシは枝別れしてびっしりつきますか、トウジンビエは麦みたいに真っ直ぐ立つ。

降矢：間違ったのかな、そんなのは作らない。

木俣：エゾビエとかチョウセンビエとかいうんで、村の人がそれだろうというのでマル(○)つけたらしい。トウジンビエの方に、・・・。いや、そういうふうにしなないとね、その西原でいろいろ伺ってもチョウセンビエをたくさん作った話ですけど、数字が合わないのですね。あんまりチョウセンビエを作っていないことになる。それで両方を足すと西原の農家では、三分の一くらい作っていますから、・・・。

降矢：いま木俣さんの言われたとおり、誤ってかも知れないですね、・・・。

木俣：どこで聴いても、そういうものは作っていないと思う。

降矢：ワシも見ることがないです。

木俣：そうすると大体、数字が合うのです。そしたら、西原ではチョウセンビエをたくさん作っていたと、・・・。農家の半分から三分の一は作っていたとなる。

降矢：・・・どうか作るのかどうか知りませんが、食べるのが簡単ですからね。ヒエっていうのは皮が二重ですからね、あれが苦になって、その前にはチョウセンビエですね、・・・。(テープ切れる・・・)

(A面 終了)

降谷さんに聴く（第四巻 B面）

（テープ起し 2009/3/15）

（ヒエのこと・・・）

降矢：チョウセンビエはね、・・・

木俣：・・・その辺りは粒にするか粉にするかは、日本ではところによって分かれているみたいですね。

降矢：古い時代に西原に着いたのがどういう種類だったのかね、はっきりとは分からないですね。

木俣：でも大分集まりましたから。

降矢：ワシ、単純かと思います。その辺・・・終戦後ね、東北の方からね、ヒエをさかんにつけている所から聴いてびっくりしたですよ。家畜用のヒエもあるだよね。西原で作っていたのはどの系統の種類だったかよね・・・。わからなくなったですよ。

木俣：この辺のはだいたい集めたので、その辺はわかります。

降矢：（さえぎって・・・）それでね、これ（ヒエ）は人間の食べているのだから採って行って作らないかと勧められたのだがね、わしは貰ってこなかったのですよ。なぜちゅうとね、食べるまでのが面倒でどうにもならないからね、止めちゃった。しかし後で惜しいことをしたと思って。それをいままで保存しておけばよかった。

木俣：岩手の方には三、四年前に調査にいったことがあるが、もうほとんど作っていないのです。けれども、・・・北上の方ですかね、・・・。

降矢：ええ、そうだったと思います。（・・・よく聞き取れない・・・）

木俣：そういうものも大体は集めました。このあたりのもかなり。ヒエもだいぶいろんな種類があります。まあ、いちばん種類があるのはアワですけれども、キビはあまり。

降矢：それでね、また戻りますけれども、ワシとしたら飼料用のヒエと人間の食べる食糧としてのヒエとね、どういふもんだか話だけで見たこともない。まあ、どっちかという、百姓やってワシの作ってきたヒエは作ったといってもごく少なめだった。すべてそれはね、食べるのは手間が掛かることと、いやに背丈が高くなってね、つぶれるでさあ。ひと頃、南京ビエという背が低いヤツが流行ってきた・・・それはもう、非常に実がダイヤ（？）頭と下ではできない。何時とりあげたらよいのか分からない。上は未熟なのに下はコロコロこぼれて、・・・上は青いといったような、・・・倒伏はしない、・・・極端ですよ。

（三頭山のこと）

木俣：三頭山なんか登られたことありませんか、・・・。

降矢：三頭山は元日に何回か、五、六回登ったですよ。67歳から登りだした。正月に健康診断になる。体力が前より違ってきているのだが、ああいうところに登ってみると、だいたい自分の体力の調子がわかる。前よりも足が重くなったとか、・・・。

木俣：権現山なんか行かれたことありますか。

降矢：ええ、権現山も三頭山も同じ下を越える。三頭山へは裏の山からすぐ上ることができる。そういう三頭山に……帰りも担いで人目につくのが嫌だからね、四時間くらいして帰ってくる。天候が悪くとも、この辺りは雨でもあそこまで行きますと雪になりますからね

木俣：結構、積もるものですか、……。

降矢：登山家のような装備で行くわけではなし、地下足袋だから足が冷たくなってね、……。三、四人で行ってね。眺めが思った通りの日の出はみられないものです。五年行って一回見ました。

木俣：去年は高尾山に行きましたが、駄目でした。

降矢：東の方が雲があつてね。この辺は晴れているのですがね、最後に登ったときには東が晴れてて、……日の出が出るというのは、あれは嘘だ。あれは日が生まれるというような方が正しいようだ……な。こうはじめは太陽がやわらかでね……海から上がってくるのと同じでね、日の出というより日が生まれるという方が正しいようだね。

木俣：そうですね。

降矢：ちょっと日も上がってくるとはつきりしてね……初めはフアフアしたようで……。

木俣：三頭山の尾根筋など歩かれたことあるんですか、このところずっと……。

降矢：ここから行くと三角点が……西原峠にでる。

木俣：三頭山の尾根筋は歩いたことは。

降矢：数馬に行くときはあそこ（西原峠）からね、二回ばかり、まだね……。三頭からね奥多摩湖へは鶴峠へはでない……？

木俣：サイブチ峠（？）鶴峠はでたことはない。

降矢：元日にばかり登るでしょう。この鶴峠まで行くと後は車道を帰ってこなければならない。四キロ先あるでしょう。誰か連絡して、峠まで自動車を迎えにきて貰えればよいけれど。明るくなって一、二キロ家まで来て歩いて帰ってくるのは、なんだか元旦あたりは嫌だからね。どうしてもね、麓まで自動車を送り迎えて貰うならば、かなり遠くの山にまで元旦でも何でも行けますけれどもね。ここから行くとなると、麓まで行くのに手間がかかりますからね、バスでも出るところならいいんですがね。

木俣：するとこちらから数馬に行くのに西原峠を通過して、笛吹等はもうちょっと東ですか。

降矢：笛吹には藤尾から大日（だいにち）峠、そこからなら笛吹まですぐです。

木俣：そこから行かれたことはあるんですか。

降矢：あります。笛吹から降りて人里に行って、帰りは数馬からバスで人里まで帰り、笛吹に戻ってきて藤尾に出て帰ってきた。

木俣：それで一晩泊まられてですか。

降矢：いや、葬式に行って日帰りですね。向こうを月の晩の 8 時に出て、一月の、懐中電灯をつけてね……。

木俣：何時頃に着いたのですか。

降矢：10 時ちょっと過ぎ、2 時間ちょっと、笛吹からだからね。昔は時間にはおかまいなしに歩いたですね。いまはバスがありますが、上野原にはよく歩いて行きましたです。

木俣：佐野峠を越えたことはありましたか、・・・。

降矢：昔、大月に地方事務所があって、大月が中心だったから、よく大月まで行くのに佐野峠を越えたものです。帰りは経由でしたね。ワシは小学校を卒業する頃は、猿橋に郡役所がある時代だから、その頃は猿橋の方が厳しいです。

木俣：猿橋といえが、あの橋はどこが珍しいのですか、・・・。

降矢：あれは木造の橋ですね、こう木を積み上げて、そこが良いのじゃないかな。

木俣：どこが珍しいんだか、そうですか、木が組んであるところが、・・・。

降矢：いろんな伝説があるらしい。やはり単に橋を架けるだけでなく、困っていただけではないの・・・、以前は、しょっちゅう水がでて（流された？）・・・。岩盤ないから長い橋を架けなければならない。あの・・・架けるのが困っていたらしい。それがね、猿が手をつないで渡るのを見てね・・・。

木俣：そういうことがあったのですか。

降矢：あの辺に猿を祀った御宮がありますかね、・・・。**キカイ・・・セッキで架け・・・サンキ町の珍しい橋がひとつだ。結局、ツゲ・・・で代表されている訳だろうね、・・・。**猿橋のところは、橋は猿橋で土地は猿町。

木俣：**キタジン**という人は居ました。

降矢：猿橋（エンキョウ）の橋や、エンキョウじゃ人に通らないのでサルハシになった、根拠がないけれどもそういう気がしますね。ちょうどここから 20 キロあります。上野原と猿橋と同じです。

木俣：峠を超えて行くとそうですか、同じ距離ですか。

降矢：ただし、時間は一時間余分にみておかないとね、5 時間ですか。上野原までは 4 時間、大月まではだいたい途中で別れますが、結局、どっちに行っても時間的には同じですね。

木俣：鶴川とか阿寺沢とかで、伝説はないですか、・・・。

降矢：それはね、多少は皆、あるでしょうけどね。有識者が老人から聴いて残しておけば、あったと思うのです。似たような話をつくって、・・・あったと思う。調べればあると思うが、・・・ところがわしでも（1979/10/16 現在）70 歳、80 歳の老人と大差ないですからね、わしが知らないでは先の人も知らないのでは、・・・。

木俣：桧原村の方で最近の、・・・。

奥様：ご飯おそくなりました、なんだかおそまつで、・・・

木俣：いつもすみません・・・**アマ・・・とかビハイヤマ？**というのはいない人ですか、・・・。

降矢：**ビハイヤマ？・・・タタリヤマ？**

木俣：桧原村の方ではあちこちにあるようです。工事やってタタリあるとか、大木を切って・・・とか、・・・。

降矢：いわゆる山の神とか修験ごとだね、タタリだか、・・・。事実はなんだか知らないが、・・・。

木俣：山の神様のお祀りは最近ほとんどしないですか。

降矢：部落全体で祀っていない。大きい山の神ではなく、たいがい各家で祀ってあって、そういう小さい山の神は沢山ありますかね。

木俣：昔はお供えをあげたりしたんでしょうね、・・・。

降矢：団子、筒酒をあげたかね、団子をあげたりやるんでしょうね、きっと。

木俣：ワラの苞に入れて、・・・。

降矢：そこまではしないでしょうね。西原でもやったことあるかも知れない。それはね、山の神でも部落からもっと奥になるからね、そういうことあるかも知れない。大菩薩へ行く途中、**カレガサ**という所、・・・そこか小菅から行くが、お団子は持っていったじゃないですかね。結局ね、近いところではお皿に載せて持っていきましょう、冷めないうち、・・・。

木俣：川でイワナなど釣れるのですか、・・・。

降矢：ヤマメはたくさん居る。イワナは深い谷で水量が豊かでないと、権現山の谷にはいるようだ。丹波山の方にはいるようだ。**オナガワ**、権現山のこっち、・・・あの谷は大きい方でしょうから居るでしょう。

木俣：最近、キツネとかタヌキが増えているのですが、この辺りでも居るんですか。

降矢：キツネも居ないわけではないですけども、タヌキは居ます。**アントウモロコシ**を作ってみたら、食べられちゃった。

木俣：いちど泊まり込んで、夜に赤外線フィルムで撮影してみれば面白いでしょうね。

降矢：猟期になると素早くてね、そうでないときはゆうゆうしているみたいです。・・・

(四巻 B 面終わり)